



GIGA スクールでどう変わる？

一人一台の端末配備や学校の高速大容量のネットワーク化により、ICT 機器を利用して学習を促進する体制が整ってきています。

この ICT 環境整備を GIGA スクール構想と呼称します。今の小学生は生まれた時からスマートフォンという「持ち歩けるコンピュータ」があることが当たり前の世代です。学校だけがアナログな環境であれば、そちらを不思議に思うでしょう。

端末の操作がとても簡単になったことで、だれもが ICT の恩恵を受けることは素晴らしいことですが、逆に使えるけれど、ICT の理解が追いついていない、つまり「使えるけれどわかっていない」という状況になりやすいといわれます。そのおかげで、個人情報やネット上に掲載してしまったり、契約書が読める能力・年齢にないのにアプリなどの使用契約を結んだり、ネットやアプリ上で提供される情報に過度に夢中になったり、検索した情報の真偽を判定できなかったり、フェイクニュースに騙されたり、ネット中毒になってしまったり・・・といったことが起きます。

どんな便利なものにも光と影の部分があるので、ICT を「わかって使いこなす」をめざすことが大切です。ICT の活用は目的ではなく手段、目的はもちろん学習の充実です。以下、活用例を挙げていきます。ICT の活用により自分（たち）の力でできることがどんどん増えていきます。

1. AI ドリルで基本的な知識や技能を育てる。

AIドリル画面↓

自動的に採点したり、次の問題を勧めたりしてくれる AI ドリルは基本的な知識や技能を定着させるために、とても有効です。知識・技能の時間を短くできれば、その分、考える力をつける学習に多くの時間を使うことができます。



2. NHK for School などの動画で学習する。

NHK のページにはテレビ放送番組のコンテンツが大量に掲載されています。また、YouTube などの動画サイトには、繰り返し視聴を前提とした授業動画がこれも大量に掲載されています。自分にあったものを使うと学習していく助けになります。

3. 授業支援ソフトで時間を生み出す。

電子黒板画面例↓

例えば、全員のノートを電子黒板に提示すれば、あっという間に全員の考えが一覧できます（右の画像）。プリントや資料の配付もあっという間です。これまでの授業で時間がかかっていたところを ICT でぎゅっと短くし、しっかり考える時間をとることができます。



4. 動画撮影で自分を客観視する。

なわとび、とびばこなどの運動や音読、楽器演奏などの表現では、なかなか自分の姿は見えないもの。動画で撮影すれば、自分のことがよくわかります。

5. 離れていても授業に参加できる。

様々な理由で学校に来ることができなくとも、ネット会議アプリを使えば、授業に参加することができます。また、遠方の講師さんのお話を聞いたり、別の学校と交流したりもできます。

6. 大人と同じように ICT を使いこなす。

学校は小さな社会であるべきです。最終的には大人が「仕事＝課題解決」に使っているのと同様に ICT を使うことになります。ブラウザで情報を検索し、ワープロソフトで構成・校正しながら作文し、表計算ソフトで情報を統計的に処理して、プレゼンテーションソフトで使って伝えます。写真は6年生のプレゼンテーションなどです。



←情報モラルの学習
松江市派遣の講師
が全学年で授業を
します。

冬休みにはタブレット PC を持ち帰る学年もあります。学習利用ということを確認していますが、おうちでも有効活用できますようお声がけいただけると幸いです。

働き方改革コーナー

ICT で校務を効率化。学校で会議をするときには、紙の資料を配らなくなりました。資料はパソコンの中のデータです。紙資源の節約ですし、この件はどうだったかと探すときもすぐに検索をかけられ便利です。



少し早いですが、みなさまよいお年をお迎えください。

おかげさまで2学期は学級閉鎖などなく過ごすことができそうです。体育会、音楽会、授業公開日など常とは違う形かもしれませんが、それぞれ工夫して行うことができました。各ご家庭で感染対策を行っていただいたおかげだと思っています。ありがとうございます。3学期も引き続き感染対策が必要でしょう。基本的な感染対策を行うとともに、発熱をはじめ風邪症状のあるお子さんは登校をお控えいただくなど感染拡大防止のご協力を重ねてお願いいたします。新年は、1月10日始業式です。